
ガーナリア

村雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガーナリア

【Nコード】

N2853G

【作者名】

村雲

【あらすじ】

おどけてみせた悲しみが、誰かに届く声となるのなら。

（前書き）

歌詞として作ったので読みにくい部分が多々あると思います。
ご了承くださいm（| |）m

空は青いと誰が決めた？
雲は白いと誰が決めた？
喚けば鎮まる父親のヒステリーも
苦痛でしかない母親の涙も
誰も教えようとしてくれない
いつの日かの「サヨナラ」の夜の出来事も
歌いながら手を繋ぎ歩く帰り道も
全ては悲しみから始まった

海は広いと誰が決めた？
心は狭いと誰が決めた？
泣きながらパパの温もりを待つてた
その間もママの涙は拭えずに
心は常に静寂を望んでた
異常な程の孤独を身につけた
思い出だけに愛情を注いでたんだ
自分で縛った鎖がほどけない

夢から醒めたくないよ
もう愛の言葉も要らない

視界を埋め尽くす思い出が痛みを伴う孤独を生むなら
二つの遺伝子が作る僕をその孤独と共に消してよ

人は独りと誰が決めた？
人が人の為に生きる意味とは？
揺らいでしまう程の理由も無いのに

聞きたいことだらけで嫌になるよ
時間を知らない 時間は止まらない
当たり前のことと虚栄を口にする
いつだって迎えに来る手を待ってる
いつだってサヨナラの手を拒んでる

いつの日か子供は教わる
空の色や心の在処とかを
だから子供はそれを信じ絵にして描くんだ
人の愚かさを

画用紙をクレヨンで埋め尽くした
お金で買えない温もりを知ってる
それでも何か物足りなくて
でも求めてたものはいつも言葉に出来ずに
心を隠す仮面を買って
人を想う心売り手放した
それでも何か物足りなくて
でも探してたものはいつも見つからずに

この淋しさはいつまでも続く
大人になること知らずに生きていく

視界を埋め尽くす思い出が痛みを伴う孤独を生むなら
二つの遺伝子が作る僕をその孤独と共に消してよ
おどけてみせた悲しみが誰かに届く声となるのなら
間違い続けても良いからと今を必死で生きている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2853g/>

ガーナリア

2011年1月9日02時00分発行